



(松江)

島根・西川津遺跡

所在地 島根県松江市西川津町原の前

調査期間 一九九四年（平6）四月～二月

発掘機関 島根県埋蔵文化財調査センター

調査担当者 西尾克己

遺跡の種類 河川跡

7 遺跡の年代 繩文時代～江戸時代

8 遺跡及び木簡出土遺構の概要

西川津遺跡は、隣接する原の前遺跡やタテチヨウ遺跡（本誌第一六号）とともに、松江市街地の東を流れる朝酌川（『出雲国風土記』

でいう水草川）流域に所在する低湿地遺跡である。縄

文時代から近世までの各時代にわたる遺構や遺物が発

見されているが、とりわけ

弥生時代のものが多く、宍

道湖周辺に点在した拠点集

落の一つとされている。

奈良時代から中世にかけ

ても、川沿いの生活を窺わせる遺物が数多く出土している。須恵質の土馬や木製の斎串・人形・呪符などの祭祀遺物や、木製の塔婆・巡礼札・木像（仏像か）など仏教信仰に関わる出土品も認められる。今回紹介する木簡は木製の塔婆で、本遺跡Ⅲ区（D区左岸 松江市立川津小学校付近）の旧朝酌川の土手に打たれていたものである。杭は大小四〇本程あり、その中に塔婆を二次利用したものが一〇本認められた。このうち文字の確認できた五点について報告する。

それらは丸木を半截し、その割られた面に文字を書いている。裏側は加工がなされず、皮が付いたままである。材質は松が多く、落葉樹も混じる。上部を尖らせ、塔婆を表す刻みを入れ、さらに上端部を墨で塗るものもある。また、杭とするために先端を三角に削つたものも存在する。時期は、年号が書かれた塔婆が一本あり、江戸時代中頃と考えられる。

9 木簡の艸文・内容

(1) *是* (タマーチ)

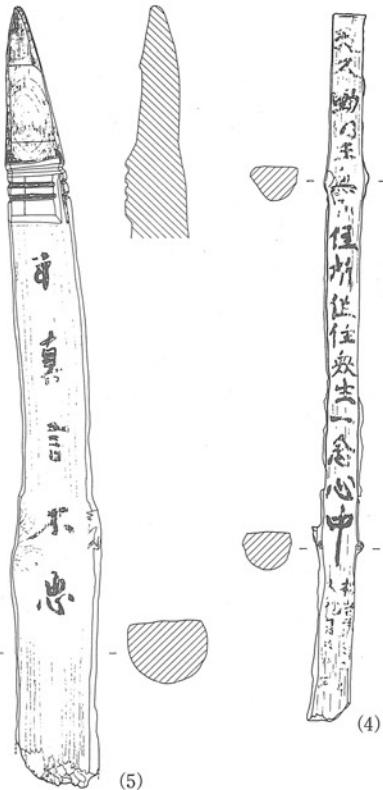
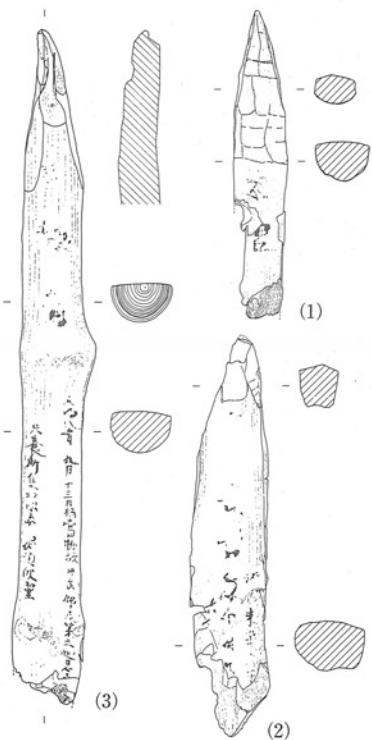
(425)×径44 061



(550)×径96 061

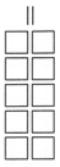
(2) 尊趣者天明八年九月十三日□□物故妙真禪尼
共養所集功德奉□伏願儲□利生

(3) (932)×径81 061



(4)

(カニ)
不動明王無口住所但住衆生一念心中



(981)×径76 061

(5)

(パン)
真言不忠×

(1084)×径107 061

(1)～(3)は、上端が尖り杭状になつてゐる。(2)の年号の最初の一文字「正」と考へられ、未年より正徳五年（一七一五）と推定される。
(3)の尊趣は尊意の意味か。天明八年は一七八八年。(4)は、上端が折

れており、杭状かどうかは不明。(5)は、上端は尖る。尖りが始まる部分に三条の平行の刻みの線を入れる。尖る部分と二条の刻みの線には墨を塗る。

9

関係文献

島根県教育委員会『西川津遺跡VII—朝酌川中小河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第一二二冊』（一〇〇〇年）

（西尾克己）